



祐介の目

No.164

大田祐介 (福山市議会議員)

たまごかけご飯

TKGとは卵かけご飯の略だ。その歴史は意外に浅く、明治初期に岡山県美咲町出身の岸田吟香(1833〜1905)が最初に食べたとされている。岸田の息子・劉生は画家であり麗子像等で有名だ。TKGは今や日本人のソウルフードとも言え、養鶏が盛んで美しい棚田のある美咲町の食堂かめつちには年間7万人が訪れる。同様のまちおこしは全国で行われ、日本TKGシンポジウムが開かれ、日本TKG研究所も設立された。TKG専用醤油は何十種類もあるが、福山の寺岡有機醸造製がお勧めだ。美咲町は母方の祖父母が眠る第二の故郷だ。先日、青野町長と一緒に食堂かめつちを訪問すると、平日にもかかわらず行列ができており大賑わいであった。ルーツとなった岸田吟香の資料館が同町の旭支所にあると聞き足を伸ばしてみた。眼光鋭い岸田の写真が出迎えてくれ、岸田の業績

が様々な紹介してあった。日本で最初の海外新聞を発行、和英辞典を編集し、新聞記者としても活躍して日本初の従軍記者にもなった。また目薬の製造販売で得た利益で盲学校を設立するといふ実業家であり教育者でもあった。その葬儀には伊藤博文や木戸孝允に渋沢栄一も参列したそうだ。岸田はただのTKG好きではなく、美咲町が輩出した大偉人だった。

資料館には岸田に関する書籍が揃っており、その中に青い小冊子「岸田吟香伝」があった。手に取って奥付けを見ると、なんと私の祖父・大谷熊夫の名前があった。祖父は40年前に美咲町の前身である久米郡旭町教育委員長であり、小冊子は旭町教育委員会の出版だった。偶然か必然か、祖父のお陰で岸田に一層の愛着を抱いた。祖父が養鶏を行っていたのも先覚者・岸田の影響かと思うと感慨深い。

令和の米騒動において福山版TKGはどうか。JA福山とタイアップして米の生産量を増やし、卵は(株)アキタフーズがある。しかしながら、食べ放題の食堂かめつちの経営は厳しいそうだ。もし行かれたら健康のためにも、お代わりは2杯までにして欲しい。